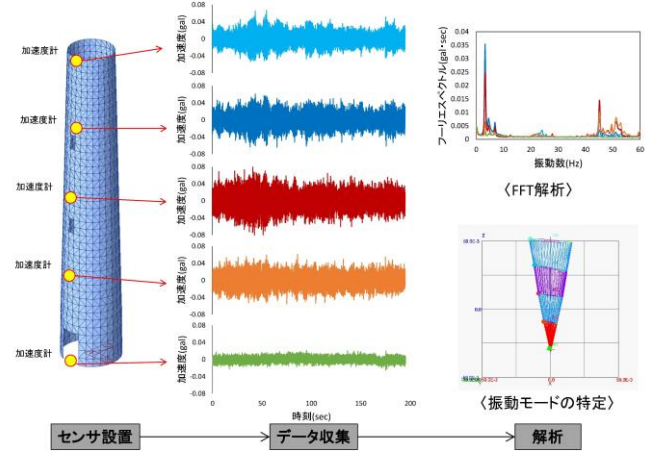


常時微動計測による振動性状の把握

*実績

2～26階建て建築物(校舎、ビル、マンションetc.)
鐘楼、灯台
土木構造物(高架橋、頭首工etc.)
歴史的建造物



センサ設置 → データ収集 → 解析



居住性能評価

*実績

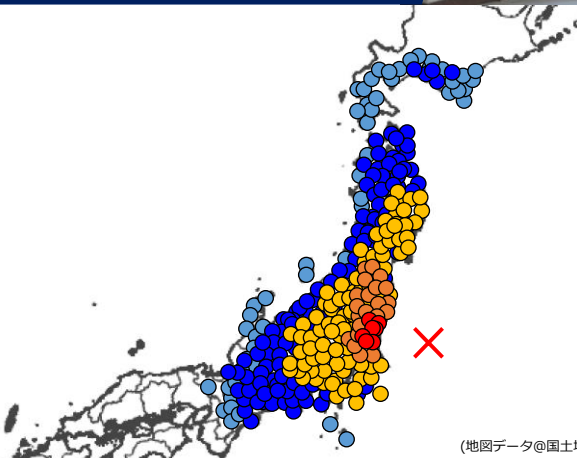
道路交通による不快振動(住宅、オフィスビル)
機械、フォークリフトによる不快振動(工場)
フィットネスクラブによる不快振動(商業施設)
歩行による不快振動(事務所ビル)

その揺れ、測ってみませんか？

部材の不具合状況の相対評価

*実績

床スラブ(鉄骨造、鉄筋コンクリート造)
柱、梁(鉄筋コンクリート造)



(地図データ@国土地理院)

強震観測

*実績

制振ダンパー施工物件(平成23～24年度の物件)
官庁施設(令和元年度、3か月間)

概要

建造物や部材は、見えていなくても、体感できていなくても、常に揺れています。

振動計測を行えば、これらがどのくらいの大きさで、どのように揺れているかを知ることができます。

特色

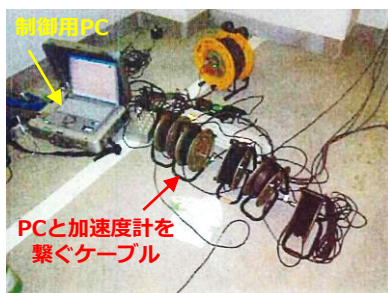


〈加速度計測装置の外観〉

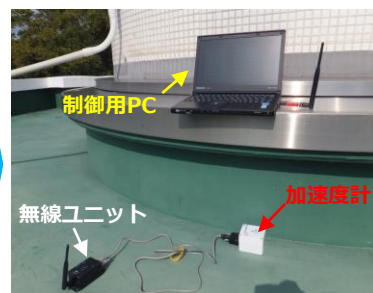
1 安全
ケーブルがないため、居住者の動線を邪魔しません。

2 短時間
無線型システムなので、加速度計の設置・撤去を短時間でできます。

3 即時解析
その場で簡易解析結果をお伝えできます。



〈従来の有線型システム〉



〈当社の無線型システム〉

仕様

項目	仕様	備考
通信方式	Bluetooth Class1	通信距離：見通しの良い条件で最大100m程度
同時計測数	最大7台	1台X・Y・Z軸を計測 (21ch)
測定範囲	±2~5G (X・Y・Z軸)	加速度計の種類による
分解能	最大24~32bit	加速度計の種類による
サンプリング周波数	100、200、500、1000、2000Hz	同時に計測する加速度計の台数、分解能による

※ 仕様は性能向上などにより、予告なく変更することがあります。

FAQ

Q 不快振動の振動源を特定したい。

A 『大型車両の通過時に大きく揺れたので、不快振動の原因は大型車両の可能性が高い』といったように、2つの事象の相関から振動源を推定します。
このため、あらかじめ振動源を想定した上で調査計画を立案しています。

Q 構造的に安全なのか検討したい。揺れの低減対策を検討したい。

A 振動計測だけでは検討できない可能性が高いです。
構造調査 (部材寸法測定、配筋調査、強度試験など) も併せて、調査計画を立案しています。